

# リスク管理

## 方針

当社グループは、事業戦略に対して直接または間接の損失発生、事業の中断や停止、信用・ブランドイメージを損なう等のリスクについて管理しています。

事業を取り巻くリスクは、9つのリスクカテゴリに分類され、それぞれのリスクの蓋然性や影響度に合った方針と体制を整備、運営しています。

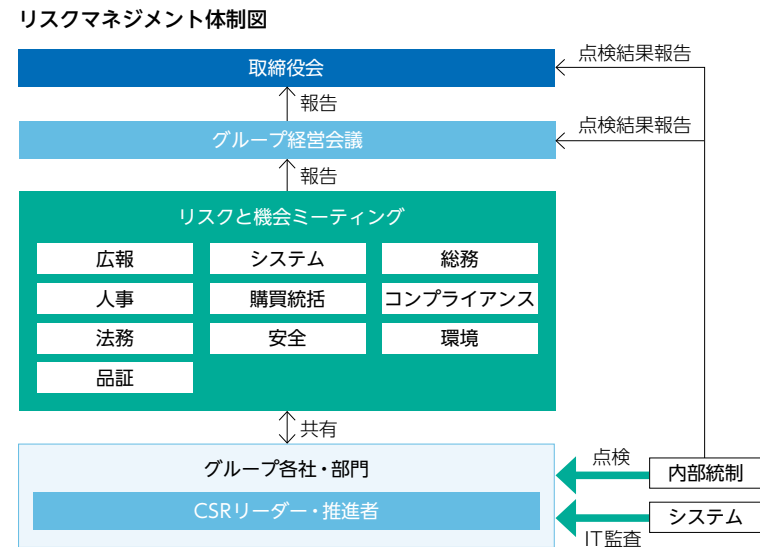
## 体制

当社グループの経営全体または事業の各分野において特に重要なリスク管理の基本的枠組みは「グループリスク管理規則」に規定し、リスクの特定は、潜在リスクの特定→蓋然性評価→影響度評価のプロセスで行います。

特定されたリスクの評価結果に基づき危機対応計画を含むリスク管理方針や体制を整備し、それぞれ年次計画を策定して計画に沿ってリスク管理を行います。

リスクごとの主管部門は、それぞれの重点対策リスクを当社グループ全体のリスクとして認識し、全体および個別リスクの低減、回避、危機発生時の対応が実践できるよう管理しています。

グループ各社のリスク管理状況は品質監査、環境監査、労務監査、IT監査などのリスク管理部門が行う監査によってモニターし、その状況はリスク管理部門から、個別課題状況または全般状況としてリスクと機会ミーティングで報告、情報共有がなされ、当社グループ経営会議、その後取締役会へ年2回報告を行っています。



## 計画と取組み

グループリスク管理規則において規定されるリスクのうち、オペレーショナルリスク並びにハザードリスクの主なリスクと、対応実績評価は以下の通りとなります。

リスクカテゴリ		2024年度計画／取組み			
		主なリスク	リスク管理策・対応方針	今年度 評価	前年度 評価
オペレーショナルリスク	適用法令違反	・法令違反、規則違反、ハラスメント	・コンプライアンスミーティング、研修の実施	○	○
		・業務不正	・再発防止の啓発（拠点長会議、職場行脚の実施）	○	○
		・人権侵害における救済措置体制の不備	・「苦情メカニズム」の整備、「救済」手続きの策定	○*1	△
	品質問題	・品質に対する意識の低下	・コンプライアンス教育、品質の日の取組み、監査、ルールの周知	○	○
		・ハイリスクな開発案件の見逃し	・法規適用製品、品質リスクの管理評価	○	○
		・品質実務人財の不足・偏り	・人財マップ整備、人員充足状況の把握、ローテーション実施	△*2	△
	環境問題	・環境法令違反、トラブル	・法令勉強会開催、監査実施、迅速な情報発信、情報共有	○	○
		・環境実務人財不足	・環境現場監査等での過去環境トラブルの次世代周知	○	○
		・環境設備劣化	・定期的な点検や更新、トラブル回避設備の予防設置	○	○
	安全衛生問題	・挟まれ巻き込まれ災害	・危険箇所点検実施、戦略会議の実施、情報共有	○	○
		・休業災害の発生	・災害発生現地の確認とグループ内横展開	○	○
		・法令違反、ルール違反の発生	・監督署指導への対応支援、勉強会開催、課題の抽出と対応支援	○	○
	情報セキュリティ問題	・サイバーアタック	・CSIRT訓練実施、情報収集、セキュリティ製品追加	○	○
		・ソフトウェアライセンスコンプライアンス	・ソフトウェア内部監査実施、IT資産管理システム構築	○	○
・情報システムの不正利用／不備		・IT全般統制有効対象システムのIT統制管理システム本運用開始	○	○	
・IT人財の不足		・外部委託の導入、生成AIの活用、IT教育実施	○*3	△	
企業秘密流出	・電子情報資産の流出	・IT診断の全実施、訓練実施、CSIRT強化、生成AI利用ガイドライン制定	○	○	
安全保障輸出管理	・無許可輸出、貿易規制抵触	・法改正情報発信、輸出管理状況確認、該非判定状況確認	○	○	
適時情報開示の懈怠	・コミュニケーション不全	・対話機会の頻度向上、開示資料、開示方法の改善	○	○	
ハザードリスク	自然災害・事故災害	・自然災害	・災害速報の実施徹底を継続、備蓄整備、BCP整備、訓練実施	○*4	△
		・事故災害	・警察・消防・関係団体への挨拶、総会等への出席	○	○

○：完備、若しくは年度進捗目標を達成    △：取組みはあったが、目標未達  
前年度評価が△であった項目への対応  
※1 人権侵害に対する救済措置体制の整備は2024年度完了    ※2 品質実務人財のローテーションは実施に向けて引き続き調整中  
※3 IT関連業務の一部外部委託導入は2025年運用開始    ※4 BCP机上訓練ならびに災害対策本部立ち上げ訓練を2024年度に実施